

# 本気で感謝しなければ

我が子たちが幼かったところに見始めたディズニー配給のアニメーション映画作品「トイ・ストーリー」。皆さんは見ていますか。私は新作が出るたびに見ています。大人でも十分楽しめる上に、ストーリーから大切なものを学び取れる作品です。

私は、第一作から第四作まで全ての作品を見ています。その中で、最も私の脳裏に焼き付いている場面は、第二作の中のジェシー（写真）というカウガール人形が、持ち主であるエミリーに忘れ去られていく回想場面です。

エミリーに大切にされていたジェシーでしたが、エミリーが大人に成長していくにつれ、徐々に忘れ去られていきます。そして、ベッドの下に置き去りにされ、エミリーの記憶からも消えていきます。やがて、そのまま捨てられた後、ガレージセールで売りに出されるという、おもちゃの避けられない運命が表現されています。

この「トイ・ストーリー」に出会う前から、私には、自分に関わる全てのものに命があって、人間の知らないところでそれらが喜怒哀楽を味わっているような気がしていました。

幼いころ、少しでも荷物が軽くなるように、母が弁当の入れ物を捨ててもよいものにしてくれても、私は必ず持ち帰っていました。この年になると恥ずかしいのですが、そのころは「環境のためにゴミを持ち帰ろう」ということではなく、「入れ物たちがかわいそうだから」という気もちが働いていました。もちろん今は命があるとは思っていませんが、自分のものはどんなものでも大切にしたい、感謝したいという思いは忘れずにもち續けています。

職員室のカウンターの隅にうずたかく積まれていた忘れものたちが、長机の上に広げられました。あなたは近寄ってみてみましましたか。それとも、自分のものではないと決め込んでスルーしましたか。タオル、手袋、Tシャツ、辞書、野球グラブ、シャープペンシルや消しゴムなどの文房具……。ジェシーは忘れ去られガレージセールで売りに出さされました。これらの忘れものも、持ち主が引き取らなければ処分か再利用となるでしょう。

何不自由なく暮らせる豊かな時代になりました。一方で、人間は大切な何かを忘れてしまっているのではないのでしょうか。「ものに感謝、食べものに感謝」と口でいうのは簡単ですが、本気で感謝しなければ、そのうち神様がとんでもないしっぺ返しをお与えになるかもしれません。人間が人間を使い捨てるという時代も……。人間だけがもつ「大切にできる心」はこの先ずっともち続けたいものです。

（九月十四日記）

